

石巻宣教支援会 報告

～東北をキリストへ～

2020年3月 VOL. 12

石巻宣教支援会

主の御名を賛美します。

『わがたましいよ。主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。』

(詩篇 103:2)

いつも石巻宣教のためのご支援とお祈りをいただき、心から感謝いたします。



新型コロナウイルスの猛威に揺れる中でも、教会の玄関先では春の花が美しく咲いています。

かねてよりお祈り頂いていた3月13日開催予定の『森祐理 希望のコンサート』は残念ながら中止となってしまいました。すでに、案内ハガキは送っており、「その日は行くよ」と電話を下された方があり、他の方々も楽しみにしておられたのですが、中止のハガキを送らざるを得なくなりました。そのような中で森祐理さんからは「来年は必ず行きます」と嬉しい連絡を頂きました。更に、川口福音自由教会と草加福音自由教会のご支援による『第3回 石巻イースターフェスティバル』も中止になりました。そして、こちらも「来年度は行けることをお祈りしています」と励まされる返事を頂きました。これら二つは石巻宣教の大きな行事でしたから、とても残念でしたが、すべては主の御手の中にあり、決して無駄になることはない信じ、主に期待しています。

コンサート中止で時間ができた私たちは、色々な方々を訪問させて頂いていますが、震災から10年目の年を迎える中、皆さんお歳を重ねられていることを改めて実感します。定期的な訪問と救いのためのさらなる祈りが必要であることを強く覚えます。

ところで私たちは、教会が建てられているこの渡波の地域には、震災前にはキリスト教会がなかったと聞いていましたから、福音が全く伝えられていなかった地域だとばかり思っていました。

ところが、3月1日の礼拝に、渡波で生まれ育ったクリスチャンのご婦人が友人と出席され、そこで約50年前に保守バプテストの女性宣教師二人（ポーエン師とフライシュマン師）が、この地でCSの集会を開いていた、と聞きびっくりしました。

仮設支援を通して知り合った方から、「昔、渡波にもキリストさんが来た」と聞いたその通りだったのです。そして、キリストを信じる方が、起こされていたのです。礼拝に来られた方のご両親は、小学生だったお姉さんを通して知り合った宣教師から福音を聞いていたそうです。当時はお寺の総代をされていたこともあり、信仰告白には至りませんでした。しかし渡波を離れた晩年には受洗され、先に召されたお父様に続き、今年の1月にはお母様も天に帰られ、渡波の先祖代々のお墓に納骨されたのだそうです。その折に教会の十字架を見つけ、驚き、改めてこの日の礼拝に来られたのです。

教会が建てられているこの渡波の地域は、50年前の宣教師の働きや、震災支援を通して、世界中のクリスチャンたちの祈りがたくさん積まれた地であると再認識させられ、御名を崇めました。

「お茶っこ会」

石巻教会の定例集会は、仙台教会パッチワーク教室のメンバー支援による毎月1回の「クラフト教室」と、月2回の「お茶っこ会」、そして毎週水曜日の夜の祈祷会です。その中でもお茶っこ会には教会のご近所の方々が十数名集われています。ご高齢の方が多いため地域なので楽しく集まれる「お茶っこ会」はとても喜ばれています。

最初はどのようなプログラムにすれば良いのか神様に祈り求め、試行錯誤の連続でしたが、今では「聖書のお話し」の前に必ず賛美する手話付きの讃美歌「主われを愛す」は、皆さんとてもお上手です。

そして昨年からは、なつかしの歌のコーナーに、もう1曲「明日を守られるイエス様」の賛美を入れてみました。すると、この歌詞に心動かされたお二人の方がソングシートを欲しいと持って帰られたのです。

♪明日はどんな日か私は知らない。晴れか、嵐か、曇りになるか、私は明日を心配しないイエスが私を守られるから。明日は私には分からないけど明日を守られるイエスがおられる♪

仙台教会の姉妹が録音してくださった伴奏CDに合わせて、みんなで大きな声で主を賛美できるとはお茶っこ会をスタートした時に誰が想像できたでしょう…。主の御名を褒めたたえます！

そして、今年3月の第二聖日からメンバーのMさんが聖日礼拝に来られるようになりました。この方は仮設支援からの長い繋がり、クリスマス礼拝やイースター礼拝、設立記念礼拝などには必ず来て下さる方です。続けて出席され、救いがはっきり分かりますように、と祈っています。

また、教会のすぐ裏のUさんは「お茶っこ会は楽しみだ。ありがとうね。」といつも言ってくださる方です。この方が年明けの寒い時に「花っこも楽しみなんだけど、実がなるとこれまたいいんだよ」と、種から育てたスナップエンドウの苗をくださいました。



そして、春の風に誘われてつるが出てくると杖をつきながら、つるを巻き付かせる竹を持ってきてくださいました。私たちの願いは、この渡波の方々が救い主イエス様を信じ、みんな笑顔で御国をめざすこと、そして世界中の祈りの中で始められた主の教会が「私の町の私の教会」としてその使命を果たしていくことです。



《変わりゆく風景》

震災から10年目を迎え、防潮堤は、かなり完成に近づいています。漁師の方々にとって、家の前からすぐに船に乗って海に出られることはステータスでしたが、岸壁そばには家を建てられなくなり、防潮堤が完成すれば、海はまったく見えなくなってしまいます。

石巻に来た頃は海岸近くの道路を走ると海が見えました。しかし、今は全く見えなくなり、日和大橋を渡る時によりやく見えます。海辺の町はまるで、城壁に囲まれたエリコの町のようなのです。

右の写真（防潮堤）は、矢印の方から撮影した写真です。



【祝田地区防潮堤】

【祈りの課題】

1. 主が、まことの神を求める方々を起こして下さり、礼拝につながりますように。
2. イエス・キリストを信じ、救われ、洗礼を受ける方が起こされますように。
3. 月二回、第一と第三金曜日の「お茶っこ会」が用いられるように。
4. 新型コロナウイルス感染から教会、地域の方々が守られますように。

★石巻宣教支援会へのご支援と、お祈りを心から感謝します。